

相談援助実習における実習マネジメントの 現状と今後の課題

—山梨県における実習指導者フォローアップ研修の取り組みから—

渡 邊 隆 文¹⁾ 安 保 尚²⁾ 飯 高 京 子³⁾
檜 木 博 之⁴⁾ 初鹿野 美 穂³⁾ 深 澤 寛 奈⁵⁾
和 光 勇 介⁶⁾ 渡 辺 健 市²⁾ 渡 辺 裕 一⁷⁾

Current status and issues in the field training management for social work students

～ From the discussion with field training supervisors in Yamanashi～

WATANABE Takafumi, ANBO Hisashi, IITAKA Kyoko,
NARAKI Hiroyuki, HAJIKANO Miho, FUKASAWA Kanna,
WAKO Yusuke, WATANABE Ken-ichi, WATANABE Yuichi

抄 録

近年、福祉に関わる様々な問題が取り上げられ、支援を担う社会福祉専門職の質と量の確保が求められるようになった。社会福祉士の養成においては、カリキュラム改正や実習の在り方について議論され、これまで以上に養成校だけでなく支援現場の実習指導者への大きな期待が寄せられている。専門職を養成する過程において、特に「相談援助実習」が果たす役割は大きい。本研究では、平成26年度実習指導者フォローアップ研修のテーマとして取り上げた実習指導者と養成校担当者が抱える実習マネジメントの課題に焦点を当て、現状と今後の課題を明らかにすることを目的とした。調査は研修参加者を対象とし、プレーストーミング実施した。分析の結果、「受け入れ体制」、「養成校との連携」、「実習におけるリスクマネジメントの重要性・考えられる対応策について」の3つに分類された。

キーワード：社会福祉士

相談援助実習

実習指導者

実習マネジメント

1) 健康科学大学
5) 甲府市役所

2) 富士吉田市役所
6) 富士河口湖町役場

3) 山梨赤十字病院
7) 武蔵野大学

4) 身延山大学

I. 研究の背景

近年、高齢者、障害・疾患、子ども・家族、経済的困窮等、福祉に関わる様々な問題が取り上げられ、支援を担う社会福祉専門職の質と量の確保が求められるようになった。社会福祉士の養成においては、カリキュラム改正や実習の在り方について議論され、これまで以上に養成校だけでなく支援現場の実習指導者への大きな期待が寄せられている。専門職を養成する過程において、特に支援現場で行われる「相談援助実習」が果たす役割は大きい。

山梨県においても社会福祉士会が中心となり、社会福祉士の相談援助実習の充実のため、実習指導者の育成やフォローアップのための取り組みを行っている。具体的には、実習指導者講習会の受講者（他都道府県等での受講者含む）を主な対象としたフォローアップ研修として、年1回の実習指導者会議を社会福祉士会と社会福祉士養成校協会山梨県支部の共催で開催している。平成26年度は、実習マネジメントに焦点をあて、実習指導者が抱える現状と課題について養成校とともに検討した。本研究では、平成26年度実習指導者フォローアップ研修の中で抽出された実習指導者と養成校担当者が抱える実習マネジメントの課題に焦点を当て、現状と今後の課題を明らかにすることを目的とした。

II. 研究方法

1. 調査対象および方法

山梨県社会福祉士会主催の平成27年3月8日に実施した「平成26年度実習指導者フォローアップ研修」の参加者である実習指導者31名を対象とした。1グループ6人程度になるようグループ分けを行い、「実習マネジメントを行う際に感じている課題」をテーマに話し合い、付箋を用いたブレインストーミングを実施した。

2. 分析方法

研修で行ったブレインストーミングの結果、全グループの付箋は合計127枚であった。

表1：実習マネジメントの展開における6つの要点

	項 目	内 容
①	共通認識の形成	実習受け入れに対する組織としての共通認識の形成
②	実習受け入れ推進組織の形成	実習にかかわる責任、権限、業務の明確化と実習受け入れ推進組織の形成
③	役割分担と連携	実習受け入れの役割分担と養成校との連携等に関わる実務の遂行が行える体制を作る。
④	状況把握と情報の共有	実習生の状況、実習進捗状況の把握と情報の共有
⑤	相互支援	実習受け入れ施設・期間内における必要な相互支援を行う
⑥	問題解決	実習にかかわる特別な状況への対応（問題解決、事故防止）

注：社団法人日本社会福祉士会（2014）をもとに筆者作成

集まった付箋の内容をもとにカテゴリーに分類後、分析尺度として、日本社会福祉士会(2014)の「実習マネジメントにおける6つの要点」を用いて分析を行った。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮については、調査対象者に対して事前に、①研究の概要に関する項目、②個人情報保護法に関する項目、③侵襲および安全管理に関する事項、④インフォームド・コンセントに関する事項について口頭説明し、その場で本件への調査協力の同意を得た。

Ⅲ. 分析結果

分類の結果、「受け入れ体制」、「養成校との連携」、「実習におけるリスクマネジメントの重要性・考えられる対応策について」の3つに分類された。実習マネジメントの展開における6つの要点(①～⑥)と照らし合わせ整理すると、「受け入れ体制」で語られた内容は「①共通認識の形成」、「②実習受入れの推進組織の形成」の2点が抽出された。「養成校との連携」では、「③役割分担と連携」、「④状況把握と情報の共有」の2点が抽出された。「実習におけるリスクマネジメントの重要性・考えられる対応策について」、リスクマネジメントは「⑥問題解決、事故防止」に該当し、実習に関わる特別な状況への対応〔問題解決、事故防止〕を指している。「⑤相互支援」は、抽出されなかった。

Ⅳ. 考 察

1. 受け入れ体制

「受け入れ体制」は、「①共通認識の形成」、「②実習受入れの推進組織の形成」の2つに分けられた。「①共通認識の形成」では、共通認識の形成の対象として他職種の職員、実習指導者の直属の管理職、職場全体の3つが挙げられた。まず、他職種の職員に対しての共通認識の形成としては、社会福祉士ではない専門職の職員に対して、社会福祉士の実習意義、実習内容等に関する共通認識がなされていないことにより、実習指導上のフォローを依頼することに困難が生じることや社会福祉士の実習であるにもかかわらず会議実習の内容に偏る等の難しさが生じている状況が示された。実習を受けるにあたってのメリット、デメリットも含めて他職種の職員に周知が必要であると考えられる。

〔実習指導者の直接の管理者との共通認識の形成〕としては、社会福祉士を養成する目的のために行う実習であるという視点での理解、実習指導者が行う実習事前オリエンテーション、スーパービジョンへの理解に関する内容が挙げられた。施設・機関の職員として次世代の養成・育成として業務時間内に実習指導を行うという共通認識の形成のため、実習内容を管理者に報告していく必要があると示された。

〔職場全体に対する共通認識の形成〕については、他職種の職員同様に社会福祉士の実習の意義・共通認識が必要であることが挙げられ、そのために具体的に職員間での

ミーティングを活用した情報共有、説明の場の設定の必要性が示された。

「②実習受け入れの推進に関する組織の形成」については、実習委員会の設置に関する内容と実習指導上の体制に関する内容が整理された。まず、〔実習委員会の設置に関する内容〕では、現在施設内に実習委員会が設置されていないため組織を形成する必要があること、施設・機関としての組織的な社会福祉士実習受け入れに対する組織内の周知の工夫を考える場が必要であることが整理された。

〔実習指導上の体制に関する内容〕については、実習指導にあたる社会福祉士や実習指導者が一名程度しかいない現状があり、責任をもって指導・助言できるくらいの時間的・人数的なゆとりがないという課題が挙げられた。このような課題により、実習生を受け入れが難しいという問題につながっている可能性も考えられる。実習指導者の育成、実習指導の業務についての明確化等を検討する環境が求められていることが示された。

2. 養成校との連携

実習マネジメントの展開における6つの要点のうち、「③役割分担と連携」、「④状況把握と情報の共有」の2点が抽出された。

「③役割分担と連携」で分類できた内容を考察すると実習先の施設・機関と養成校とが円滑な連絡調整ができるような手だてが必要であることが示された。具体策として情報共有や情報交換のために担当者の話し合いの場の設定、実習中の対応について協議できるためのホットライン等の電話対応の確認、養成校による施設訪問の実施が考えられる。さらに、実習先と養成校との連携は実習期間中に限ったものではなく、日常的に交流を図る等の工夫により関係を深めていける可能性が示唆された。

さらに、実習を受け入れる際に多くの実習先と養成校との間で行われる事前指導・事前打ち合わせについては、実習を受け入れる側と実習を依頼する側が互いにすり合わせ・確認しておくべき具体的な3つの項目が抽出された。1つ目は、〔養成校としての実習のねらい〕、〔実習に期待する内容〕、2つ目は〔実習先が実習生に対して行う事前指導・事前打ち合わせの内容〕、3つ目は〔実習先で行われる実習プログラム・マネジメント、実習のフォロー等役割の確認〕であった。この3点を事前に確認することで、実習先の施設・機関と養成校との役割分担、連携等につながると考える。

「④状況把握と情報の共有」では、実習期間中に施設内で実習生の状況把握や実習進捗状況の把握が円滑な実習の遂行につながるといわれている。しかし、今回の分類結果を通して、実習期間中だけでなく養成校が把握している実習生の状況・情報の必要性が示された。普段の学校生活から養成校が把握している実習生の個人特性（コミュニケーションの特徴、考える力など）、実習生の実習に対する動機・意欲とその維持に関する情報、その学生に対する指導方法に関する内容である。この点については、短期間の実習では把握しきれない内容が多く含まれており、養成校で把握している情報が実習生への的確な指導・助言を行う上でも必要な情報であることが示唆され、可能な範囲に

において、養成校との情報共有が必要と考えられる。

3. 実習におけるリスクマネジメントの重要性・考えられる対応策について

実習マネジメントの展開における6つの要点の中で、リスクマネジメントは「⑥問題解決、事故防止」に該当すると考えられる。

リスクマネジメント、リスク管理は施設・機関にとって重要なものであり、管理体制の構築、実習期間内のリスク共有を図る必要性が示された。実習の視点で捉えた場合、〔実習生と利用者との関係において生じるリスク〕と〔実習生が実習を取り組む上で生じるリスク〕に整理された。

〔実習生と利用者との関係において生じるリスク〕では、感染症に関するものと個人情報に関するものの2つ挙げられた。1つ目の〔感染症に関するもの〕については、多くの利用者が生活したり、プログラム利用したりする実習施設・機関において、感染症への対応はとても大切である。実習生が感染症の菌を持ち込み利用者に対して感染させることがないように配慮するだけでなく、実習生自身が感染者とならないための工夫の必要性が示された。

2つ目の〔個人情報に関するもの〕については、個人情報の取り扱いや保護に関して、実習先の職員間での対応や認識の徹底が重要であること、特に利用者に関する情報を実習生が触れる場合に明確な説明等を行うことが必要であると示された。近年では、SNS等インターネット配信の利用も多くみられるため、実習施設・機関内における個人情報の取り扱いだけでなく対応が求められている現状が整理された。

〔実習生が実習に取り組むうえで生じるリスク〕では、実習先の職員と同様にその機関・施設のスタッフという立場で実習に取り組む。ここでは、実習生が実習に取り組むうえで生じるリスクとして、〔災害・事故対応〕、〔実習生を取り巻く環境への配慮〕が挙げられた。

まず、〔災害・事故対応〕については、大雪等の自然災害等に対する対応、事故への対応、実習生の体調不良の対応が挙げられ、どのように組織として動いていくかを明確にしておくことが必要であることが示された。

次に〔実習生を取り巻く環境への配慮〕については、実習先の施設・機関の立地の問題があり、山間部等の場合はアクセスの問題が生じていることが示された。必ずしも車の免許を取得している学生が実習に取り組むわけではなく、どのように対応していくかが課題であると考えられる。また、宿泊を伴う実習の場合に特に女子学生への環境の配慮が必要であることもあげられた。実習において生じる様々なリスクに対して、考えられる対応策として、実習先が取り組む対応と養成校が取り組む対応が挙げられた。

実習先には、具体的に「マニュアルの整備」が求められており、実際の現場では実習受入マニュアル等の整備が不十分であることが示された。また、マニュアルは作成されていても組織として統一されたものになっていない、職員間の共有には至っていないなどの現状が挙げられた。マニュアルの作成、周知・徹底を行っていくことがリスクマネ

ジメントにもつながっていくと考えられることが整理された。

養成校には、現場に入って実際に行う実習内容にもつながる可能性のある直接支援、実習生が関わる利用者に対する理解を深めるために、専門科目の履修等の学習についての取り組みの必要性が挙げられた。支援現場で学べることも多いが、事前学習として最低限の基礎的な学習を修めておくことで実習内容の理解にもつながると考えられる。具体的な科目としては、直接支援に関わる介護技術等のケアワークに関する科目、障害や行動特性に関する科目が挙げられていた。

V. 研究の意義と課題

本研究の結果は、「⑤相互支援」に関する課題が抽出されなかった。①から④の構築がなされ、さらに実習受け入れについて施設・機関内における必要な相互支援が行われるという段階にあるため、その相互支援が行われる基盤として、①から④の項目に関する対応が求められているものと考えられる。

また、本研究を通して、社会福祉士実習は職業資格を取得するための実践的取り組みの一つで、現場の実際を体験することで実習生にとって養成校での教育・理論をより深める大切な機会であるが実習指導者と実習生、養成校担当教員等に対するミクロレベルの意見はほとんど見られず、実習受け入れ先である施設・機関、養成校等に関するメゾレベルの意見が中心に抽出された。このことから、社会福祉士の相談援助実習は実習指導者・養成校担当教員というミクロレベルでの対応だけで叶うものではなく、実習指導者を含めた実習施設組織と養成校とのメゾレベルでの対応、協働により保証されていくものであり、実習指導者は試行錯誤しながら対応している現状があることが示されたことは本研究の成果であるといえる。

今後、さらにデータの収集および分析を進めることで、支援現場から求められる実習マネジメントの展開に対する課題の整理や対応策について整理できるものとする。また、本調査は山梨県内の実習担当者を対象としたため、他地域との比較検討を行い、実習現場と養成校とはどのように役割を分担し連携することが望ましいのか、具体的な調査が必要であろう。また、他領域の専門職の実習指導・養成からも専門職養成と効果的な実習指導について示唆が得られる可能性がある。今回は調査を広げることができなかったが、今後の課題としたい。

謝 辞

本研究をまとめるにあたり、社会福祉士相談援助実習の受け入れ先である施設・機関の実習担当者の皆様には調査・研究の趣旨を理解し、調査協力を快く引き受けいただきました。ご協力いただいた皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げ、謝辞にかえさせていただきます。

〈参考文献〉

- 荒木剛 (2012)「社会福祉援助技術現場実習における学生と職員との関係形成プロセスに関する研究—高齢者施設で実習を行った学生のインタビュー調査から—」『西南女学院大学紀要』 16, 61-68.
- 石井祐理子・竹内弘美・山口理恵子他 (2011)「社会福祉援助技術現場実習に関する一考察—長期・通年型実習の特色に着目した実習システムの構築—」『京都光華女子大学研究紀要』 49, 27-42.
- 社団法人日本社会福祉士会 (2014)『社会福祉士実習指導者テキスト第2版』 56-60, 中央法規出版.
- 社団法人日本社会福祉士養成校協会編 (2009)『相談援助実習指導・現場実習教員テキスト』中央法規出版.
- 竹内美保・藤原慶二・川田素子他 (2009)「社会福祉実習教育における学習成果の検証—実習報告書の分析を通して—」『関西福祉大学社会福祉学部研究紀要』 12, 253-260.
- 長谷川国俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編 (2014)『社会福祉士相談援助実習 第2版』中央法規出版.
- 原田奈津子・高島恭子・浦秀美 (2010)「福祉分野における現場実習に関する現状と課題—実習生, 養成校, 及び実習先(施設・機関)の実習担当職員, 利用者間での連携—」『長崎国際大学論叢』 10, 187-196.
- 増見尊行 (2007)「実習指導者養成研修を受けて—企画する側, 受講する側に期待すること—」『精神保健福祉』 38(1), 42-44.
- 村田美由紀 (2009)「社会福祉専門職における学習課程と支援に関する一考察—介護福祉士から社会福祉士を目指す学生の現場実習・資格取得に焦点をあてて—」『共栄大学研究論集』 7, 123-138.

Abstract

Over recent years, many highly professionalized social workers are needed, because of diversifying social issues. Curriculum improvement and method of the field training for the certified social worker are discussed frequently, field training supervisors are expected high coaching ability more than ever. In the process of growing certified social workers, field training has so important roles for students. This study aims to reveal current status and issues focused on the problem of the field training management in supervisors. The brain-storming was conducted by field training supervisors. As a result, “acceptance readiness”, “cooperation with school”, “understanding the importance of risk management and considering countermeasures” are classified by a text analysis.

Key words : Certified social workers

Field training in social work practice

Field training supervisor

Field training management